

第2次大磯町食育推進計画（素案）に関する意見及び町の考え方について

No	頁	意見の要旨	町の考え方
1	P6	砂浴、禱龍館について詳しく説明が必要ではないか。	「砂浴」、「禱龍館」についての説明を追加します。
2	P9	P9のアンケート結果は全て計画の策定時の数字なのですか。	計画策定の前に、現状を把握するためにアンケート調査を行っております。実際には「策定前の状況」となるところを「策定時」と表現しています。
3	P18	生活習慣病の説明について、肥満は病気なのか。	医師が診断した「肥満症」のことを指していますが、一般に肥満というと必ずしも診断を受けていない場合も多いため、誤解を生じやすいため「肥満症」と修正いたします。
4	P19	メタボリックシンドロームの説明がわかりにくい。	わかり易く、図式化して表します。
5	P30	第1次計画の5年間で、学校給食の地場産食材の重量割合は10%から36%に増加したとあるが、この地場産とは「町内産」なのか、「県内産」なのか。	「県内産」を挙げています。
6	P30 P31	食の知識や習慣の普及について、中学校では「技術・家庭科の授業」の中だけでなく、「保健委員会」などでも食について取り組んでいるのは。	ご指摘の通り、中学校では「技術・家庭科」の授業だけでなく「部活動」、「保健委員会」、「文化祭」などで食に関する指導を行っています。具体的な普及の場について追記いたします。
7	P39	家庭は、保護者も子どもたちも共に忙しく、それぞれのスケジュールで生活しているため、家族で一緒に食事をする時間をとることは難しいように思われる。	第五章の1にあるとおり、家庭における食育は、基本的な食習慣や食に対する感謝の心を育てる大切な場であると考えています。「共食を考える日」をきっかけとし、それぞれの家庭の状況を踏まえて、共食の大切さを周知してまいります。

第2次大磯町食育推進計画（素案）に関する意見及び町の考え方について

No	頁	意見の要旨	町の考え方
8	P40	P40 計画最終年度が平成25年なので、第2次計画の現状は平成25年のものではないのか。	第1次計画は平成21年度から25年度までです。しかし実態を把握するのが最終年度の25年度では、連続して計画を改定する作業が困難となるため便宜上24年度までのまとめを使用しています。
9	P41	食の知識や習慣の普及について、中学校で地場産野菜を使った調理実習や郷土料理について調べようとした際に、どこに聞けばよいかわからなかったので、学校で食育を推進していく際に、地域と連携することが大切だと考える。	ご意見の通り、学校、地域、町がお互いに連携して食育を推進する体制が大切だと考えています。 第五章の2の基本的な考え方の中に、「家庭や食育関連団体、地域住民等と連携しながら、教育・保育の場での食育の推進を図ります」と追記いたします。
10	P42 (P40)	「かながわ産品学校給食デー」及び「大磯産品学校給食デー」はそれぞれ年2回の実施とのことだが、それだけで地場産品の使用割合を増加させることができるのか。	年2回ずつ実施の他にも、日々の給食の中で意識的に地場産品が取り入れられています。その内容をP40の説明の中に追記いたします。
11	P42 (P41)	学校給食残食率の減少を具体的な施策に挙げるのは、学校現場としては厳しいように思う。	国・県の計画にも同様の目標値が設定されています。
12	P42	P42 表 会食の機会の年2回から年7回に増やすのは難しいのではないのか。	会食の機会として、同学年での会食、異学年での会食、生産者とのふれあい給食、6年生を送る会などがあります。それぞれの機会を活用して、目標を達成することを目指すものです。

第2次大磯町食育推進計画（素案）に関する意見及び町の考え方について

No	頁	意見の要旨	町の考え方
13	P48	基本目標と施策展開の場面ごとの取り組みの表について、学校給食残食率の減少という項目が乳幼児期から矢印が入っているが、学校給食であれば学童期からの矢印になるのではないか。	項目名を「学校給食残食率の減少への取り組み」と修正します。 P41の第5章2教育・保育における食育の推進の内容に、「小学校だけでなく幼児期から食育を推進することで…」と追記いたします。
14	P51	アンケートの集計結果は、広報、ホームページなどでは伝えられているが、口頭での公表の場が少ないように思う。	ご指摘のとおり、アンケート内容を町民の皆様にお伝えする機会が少なかったと認識しています。第7章食育の推進体制 3アンケート調査等の内容に、「アンケートの結果は随時町民の皆さんにお伝えしていきます」と追記いたします。

意見提出者数：5人

意見数：14件